

## 創立 80 周年の 11 月に思う



今月、創立 80 周年を迎えた創価学会は、1930（昭和 5）年 11 月 18 日、牧口常三郎初代会長と戸田城聖第二代会長(当時理事長)によって創立されました。第 2 次世界大戦中は国家神道を中心とする宗教・思想の統制をはかった軍部の弾圧で、牧口会長、戸田理事長は投獄され、当時 3000 世帯あった組織は壊滅状態に陥りました。

1944 年 11 月 18 日、牧口会長は獄中で殉教。翌年 7 月 3 日に出獄した戸田理事長は、第二代会長として逝去する 1958 年までに 75 万世帯を達成しました。

1960 年 5 月 3 日、池田第三代会長(現名誉会長)が就任してからは、世界でも会員が増加、現在 192 カ国で S G I (創価学会インタナショナル)のメンバーが日蓮大聖人の仏法をたもち、その国の繁栄と平和に貢献しています。

これまでに創価学会が果たしてきた役割は計りしれません。今、日本最大の平和勢力となっているのも、戦時中に各宗派や団体、マスコミまでが軍部政府に懐柔されてしまったのに対し、2 代の会長が戦争に反対して投獄されたのは（うち 1 人は殉教）あまりに尊い歴史的事実です。

学会の草創期から現在に至る活動は、形の上では大きな変化を経てきました。いろんな批判も受けてきました。でも、どんなに時代が変わっても、悩んでいる人を励まし、困っている人を助け、社会の繁栄と平和に努めてきたことは、ほぼ半世紀の信仰活動をしてきた私自身が身をもって感じています。自分のことだけを考える人が多い今の世の中で、こんなにも他の人の幸せに思いをいたす人々のいる団体は極めて少ないのではないのでしょうか。

一例です。私が大学生だった入会当時、よく面倒をみてくれた先輩の N さんは中卒、しかも元やくざの組員でした。なんとかやくざから足を洗いたいと思った。そのためには指を詰めなければなりません。それを避けるために逃げ回り、飛び込んだ先がたまたま学会員の家だった。そしてその家族の話と面倒見の良さから N さんは入会、結果的に指を詰めることなくやくざから抜け出すことができたといいます。入会後の N さんは、誰に対しても面倒見がよく周囲から頼りにされていました。社会に迷惑をかけ嫌われていた人間が感謝される人間へと変わっていった。まさに仏法でいう「人間革命」の一事例です。

今の私があるのも、氏の前向きな生き方と激励のおかげと、今度は自分が悩んでいる人や後輩の力にと決意しているところです。信仰はどんな逆境も乗り越えていく勇氣と力を与えてくれます。私も 7 年前にうつになりましたが、人生のどん底から立ち直れたのも信仰の力が大きかったと感謝しています。私に限らず、最初は貧しさや病苦を乗り越え、幸せになりたい一心で入会する人が多い。しかし、いつしか自分の悩みを抱えながらも、他者の幸せを願い行動できる境涯へと変わっていくのは入会後に共通する生き方です。砂漠のように乾ききった、エゴと不信が渦巻く現代社会で、こんなにも美しい心と温もりのある集まりが創価学会の世界なのです。

10 数年に及ぶ海外生活を通し、人間が人間らしくあるためには宗教が必要であり、外国では宗教のない人は信用されない、といった面も見てきました。正しい信仰の素晴らしさを理解していただきたく、記念すべき創立の月に綴った次第です。